

Crescendo

vol.128

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

メディキット県民文化センター
MEDIKIT ARTS CENTER

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER



小曾根真 featuring No Name Horses
©大杉隼平

スーパー・ビッグ・バンドを率いる
世界的JAZZピアニスト
小曾根真 Special Interview

「クリスマス・オラトリオ」関連企画
ドイツ流クリスマスの過ごし方

Miyazakiみにまむ音楽会

「Let's和の音♪」
たいけん密着レポート



オルガンとその仲間たちシリーズ



Miyazakiみにまむ音楽会

Special interview



「ドキドキさせないと
楽しくない」

〈プロフィール〉 小曾根真(おぞねまこと) / No Name Horses(ビッグバンド)
小曾根真が率いる絶勢1名のビッグバンド。メンバーはいずれも日本を代表するミュージシャンで、自身のバンドでリーダーを務めるなど大活躍している。2004年に結成。これまで国内ツアーの他、アメリカ(世界最大のジャズ・コンベンション「TJAJE(国際ジャズ教育協会/NY)」)、フランス(ラロック・ダン・テロン・ピアノ音楽祭)、スコットランド(エジンバラ・ジャズ・フェスティバル)、ウィーン、シンガポール(モザイク音楽祭)等で演奏。音楽のジャンルを越えたコラボレーションを行うなど、留まるこその第一線での活動に注目が集まっている。

宮崎では、宮崎国際音楽祭への出演やNHK交響楽団のソリストなど、クラシックで魅了してきた小曾根真さん。ついに今回、真骨頂ともいえる“スーパービッグバンド”を率いての宮崎公演が実現します！トップミュージシャン達だからこそできる挑戦、そして、メンバーや音楽への想いを熱く語っていただきました。

【Q】ジャズとの出会いはいつですか。

僕の場合は、父親が家でハモンドオルガンを弾いていたので、父親の演奏を通じてジャズの世界を知ることがほとんどでした。幼い頃は、父親が選ぶレコードと一緒に聴いていました。レコードって、再生するプロセスも楽しいんですよ。まず、アンプの電源を入れて真空管を温める。温まつたらLP盤を袋から出して静電気をとるスプレーをかけて、ビロードみたいな布で拭いてターンテーブルに置いて、そっと針を乗せるんです。それが一つの儀式みたいで、親父の姿を見て「かっこいいなあ」と思っていました。

【Q】メンバーはトッププレイヤーばかりです。結成した経緯は。

2004年、ジャズシンガーの伊藤君子さんのレコーディングをきっかけに集まったのがNo Name Horses(以下、NNH)のメンバーです。当初はレコーディングのみの限定的ビッグバンドだったのですが、あまりにもレコーディングの内容が素晴らしい、僕の中でこのまま終わらなければという気持ちが高まり「もう一度このメンバーで音を出したいんだけど、やってみない？」と声掛けしたことが、NNH結成のきっかけです。

【Q】バンド名「No Name Horses」に込められた意味は。

No Name Horses=名もなき馬たち。NNHはメンバー全員がそれぞれのグループのリーダー格で、いわゆる東京のファーストコールのジャズミュージシャンの集まりです。本当はサラブレッドが集まっていたバンドと呼びたかったのですが、飼われていて名前がついているサラブレッドではなく、名前のない=誰にも飼われていない、支配されない、自由に駆け回る馬たちという意味も含めています(笑)。

小曾根真 に聞く！

奇跡のセッションで熱狂させる世界的ジャズピアニスト

クラシックもジャズも演奏される小曾根さんですが、演奏に向かう時の気持ちの違いなどを感じますか？

僕にとってコンサートとは技術を見せる場ではなく、生身の人間が発するエネルギーを五感で受け止め、生理的・感情的にわき起こるものをお客様に味わってもらう時間だと思っています。しかしながら、その楽しさは常に「怖い」という気持ちと表裏一体。ジャズは瞬間のコール&レスポンスで自己表現をする音楽です。相手をハラハラさせるのはダメだけど、ドキドキさせないと楽しくない。誰も行ったことのない、未知のところに向かっていく高揚感が即興の醍醐味です。そこには失敗するかも、受け入れてもらえないかもという怖さがあります。しかし、手慣れたアレンジでは予定調和になってしまい、即興ならではの面白さがなくなってしまいます。ワクワクしながらもどこかに怖さがある、それは挑戦するからこそその感情ですよね。怖さと向き合うエネルギーがなければ感動だって生まれない。僕にとって、これはジャズの時もクラシックの時も同じ気持ちです。だからこそ、どのステージも死ぬほど怖がって、死ぬほど楽しんでいます。

【Q】最後に、公演を楽しみにされている方にメッセージをお願いします。

宮崎の皆さん、音楽に対する愛情は、とてもとても深く大きいものだと感じています。また、美味しい食べ物に囲まれる(笑)ことは、演奏家や創作者にとって大いなる“刺激”であり“やすらぎ”です。今年で結成13年目になるビッグバンド「No Name Horses」。ジャズという枠を越えて音楽を作り続けてきた個性あふれる素晴らしいミュージシャン達の中に、今回はニューヨークから素晴らしいトロンボーン奏者・マーシャル・ギルクスが加わり、皆さんがハッピーな気持ちになれるステージを作り上げます。ぜひ会場でお会いしましょう！

公演情報

小曾根真 featuring No Name Horses

12月23日(土・祝) 開場16:30 開演17:00

【会場】アイザックスターントホール

【出演】ピアノ:小曾根真

トランペット他:エリック宮城、木幡光邦、
奥村晶、岡崎好郎

トロンボーン:中川英二郎、マーシャル・ギルクス
バストロンボーン:山城純子

アルトサクソфон:近藤和彦、池田篤
テナーサクソфон:三木俊雄、岡崎正典

バリトンサクソfon:岩持芳宏
ベース:中村健吾
ドラム:高橋信之介

【料金】全席指定 S席5,000円[会員4,500円]

A席3,000円[会員2,700円]

ペア割9,000円[会員8,100円]※S席のみ、前売りのみ

U25割1,500円※A席のみ

親子割3,500円※小・中学生+一般、A席のみ

高校生会員1,000円※A席のみ

卷頭コラム

イヴ・モンタンとさくらんぼの実る頃

ニシタチで一年に一回ほど覗く店があります。My Key(マイキー)というピアノのある店で、行くと必ず店のママさん(ピアニスト兼シンガー)に唱っていただくのが「さくらんぼの実る頃」という歌です。誰かに恋をして、愛する人の腕に抱かれ、やがて恋を失い…という19世紀のフランスで作られた歌です。ママさんの情感がこもった歌を聴くと、私はなぜか涙腺が刺激されやがて涙がこぼれます。過ぎ去った日々を振り返ろうとする時に湧いてくる切なさでしょうか。最初にこの歌を聴いたのは30年ほど前ですが、その時もやはり涙が出たのを憶えています。

1980年代に3年間、私はNHKパリ総局に勤務しました。その最後の年に企画しスタートさせたのが「岸恵子のウイークエンド・パリ」という番組です。毎週末の1時間のパリ発ナマ放送番組。毎回すごい人たちがギャラなしで出演されました。元大統領のジスカール・デスタンさんを始めとして政治家、映画監督、俳優、画家、写真家…番組キャスターの岸さんがインタビュー兼同時通訳者になってお話を聞いていくのですが、見ている人が殆どいない衛星放送の初期に、とても話題になった番組です。

その中でも絶賛されたのが、俳優イヴ・モンタンのインタビューでした。モンタンさんは歌手としても「枯葉」で日本でもよく知られた方ですし、その頃はフランスの次の大統領候補に名前が上がっていました。岸さんが絶妙の語り口で彼の話を訳していきます。イタリアで生まれやがてパリに出て、労働者や貧民の味方と言われ、傭い演じ続けてきた彼は大統領候補の話を笑い飛ばしました。「ナンセンス！」と、アメリカのレーガンさんも顔負けだなと思いながらその話を聞いていた時、岸恵子さんがふと奥様の話をされました。シモーヌ・シニョレという女優さんでしたが少し前に亡くなっていました。そこからのモンタンさんの語りが忘れられません。

「シモーヌが去ってから私は何一つ部屋の品物を動かしていない。今もし、たった三分でもいい、彼女の声が聞けるなら、いやハロー、元気かいと一言でも電話で言うことができたら、僕は何もかも投げ出す。彼女の声をもう一度聴くことができるなら」「エディット・ピアフ(シャンソン歌手)が素晴らしいことを言った。『死んだ人は不在じゃないのよ。いつも一緒に見えるだけなのよ』って」。モンタンさんの哀しみ、切なさが伝わってきました。その時、挿入されたのが、彼が唱う「さくらんぼの実る頃」の歌でした。初めて聴く歌でしたが涙が止まらなくなりました。

「さくらんぼの実る頃、思い出すよあのを…」今年はまだMy Keyを覗いていません。秋の風に吹かれながら、そろそろ覗いてみましょうか。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

オルガンとその仲間たちシリーズ2017「クリスマス・オラトリオ」

ドイツ流クリスマスの過ごし方

大塚直哉オルガン事業アドバイザーの企画・監修による「オルガンとその仲間たちシリーズ」。9回目を迎える本公演では、バッハ作曲の『クリスマス・オラトリオ』をメインにお届けします。ドイツでは、クリスマス・シーズンになると、あちこちの教会や大聖堂で演奏されるこの曲。ぜひ、今年は劇場で、日本とは趣の異なるドイツのクリスマスの雰囲気を味わってみませんか?今回は、そんなドイツのクリスマスをちょっとのぞき見。延岡市の国際交流員、カリナ・ブリスさんのお話も交えながら、ドイツのクリスマスについてご紹介します。



取材協力:カリナ・ブリス(延岡市/国際交流員)
◆参考:ドイツ連邦共和国大使館・総領事館発行「ドイツのクリスマス」

クリスマスまでの準備期間“アドヴェント”を楽しむ

キリストの聖誕祭“クリスマス”を待ち望む準備期間「Advent: アドヴェント」は、クリスマスの4週間前の日曜日から始まります。ドイツの人々にとって一年で最も大切で特別な期間です。

アドヴェントの楽しみ方①

アドヴェンツクランツ

アドヴェントに入る前に、ほとんどの家庭で用意されるのが、モミの木などの常緑樹の枝でつくったリース(輪)に、4本のろうそくを立てた「アドヴェンツクランツ」です。アドヴェントが始まる最初の日曜日に一本目のろうそく、二週目の日曜日に二本目のろうそく、というように火を灯していきます。クリスマスが近づいていることを実感できる風習です。



アドヴェンツクランツ

アドヴェントの楽しみ方②

アドヴェンツ・カレンダー

アドヴェンツクランツと並んで欠かせないのが、12月1日からクリスマス・イヴまでの期間をカウントする「アドヴェンツ・カレンダー」です。日付の部分が“窓”になっているものが一般的で、毎日1つずつ窓を開けていき、中にあるお菓子などの小さなプレゼントを受け取っていきます。24個すべての窓を開け終えると、待ちに待ったクリスマスです。



アドヴェンツ・カレンダー
▲アドヴェンツ・カレンダーには、さまざまなカタチがあります。お店で販売しているカレンダーの中には、よくチョコレートが入っていますが、手作りのカレンダーの中には、個人的なプレゼントを入れることが多いです。

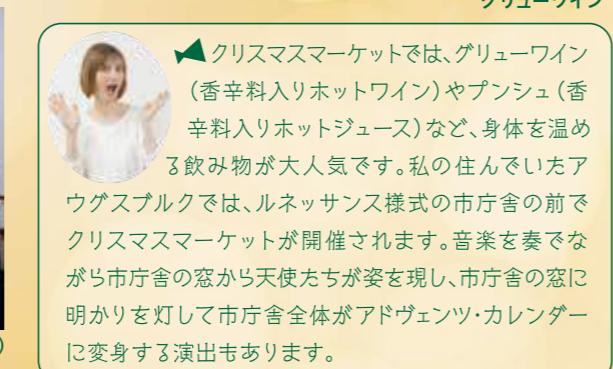


ドイツ発祥のクリスマスマーケット

ヨーロッパの冬の風物詩として有名なクリスマスマーケットは、600年以上も昔にドイツで始まったとされています。ドイツでは“アドヴェント”になると、大都市だけでも2500を越えるクリスマスマーケットが開催され、何百万もの人々が訪れます。マーケットブースには、飲食物や、ツリーのオーナメント、手作りのおもちゃ、その地域ならではの手工芸品などが並びます。ほとんどのクリスマスマーケットは12月24日の午前中で終わり、静かにクリスマスを迎えます。



クリスマスマーケットのブース



クリスマスマーケット(アウグスブルク市庁舎)



グリューワイン

クリスマスマーケットでは、グリューワイン(香辛料入りホットワイン)やブランシュー(香辛料入りホットジュース)など、身体を温める飲み物が大人気です。私の住んでいたアウグスブルクでは、ルネサンス様式の市庁舎の前でクリスマスマーケットが開催されます。音楽を奏でながら市庁舎の窓から天使たちが姿を現し、市庁舎の窓に明かりを灯して市庁舎全体がアドヴェンツ・カレンダーに変身する演出をあります。

クリスマスツリーの本場もドイツ



©Sabine Michals
ドイツ一般家庭のクリスマスツリー

クリスマスツリーの由来は諸説あります。ドイツに起源があるとされています。古い書物によると、クリスマスツリーらしきものが出現したのは1605年、アルザス地方のシュトラスブルグ(当時のドイツ領、現在のフランス)のある家庭で、モミの木に本物のりんご、ワッフル、金箔、お菓子を吊るして飾ったという記録が残っています。

そんなクリスマスツリーの本場ドイツの家庭では、24日にツリーを立て、家族みんなで飾り付けをするのが一般的です。日本では、クリスマスが終わるとすぐ片づけますが、ドイツでは、1月6日の「三王来朝の日」(イエス・キリストの誕生を聞いた三賢者が祝福しに来た日)まで飾ります。

▲モミの木やトウヒなどの生木を使ってツリーを立てることが一般的です。中には、庭で育てている木をツリーにして、また庭に植え直す家もあります。最近では、高齢者の方なども扱いやすいプラスチックのツリーを飾るところも増えています。ツリーの下には、キリストの生まれた馬小屋の情景を木彫りや粘土などで表した“クリッペ”と呼ばれる人形を置きます。クリスマスマーケットでは、等身大のクリッペがあること。本物の羊などもいたりますよ。



クリスマスマーケットのクリッペ(ミュンヘン)
©by Bundestor



Message 大塚直哉

(企画・監修/オルガン事業アドバイザー)
今年は、バッハの名作「クリスマス・オラトリオ」を取り組みます。この作品は、12月から新年にかけての計6日間の祝日のためにバッハが作曲した6つのカンタータからなるもので、天使や羊飼いなど、いわゆるクリスマス物語の登場人物が美しい音楽とともに現れる楽しい作品です。今回はこの中からトランペットやティンパニも加わった華やかな第1部、そして第6部を演奏します。昨年に引き続き、公募合唱団、ソリスト、古楽オーケストラとともに、少しでもバッハの時代の響きに近づこうと準備を進めています。また、そのほかにも、バッハの「2つのフルートのためのトリオソナタ」やオルガンの「幻想曲ト長調」、そしてヴァイオリンによるビーバー作曲「受胎告知」など、色とりどりの音楽をお楽しみいただく予定です。ぜひ会場でお会いしましょう。



家族でゆっくり祝うクリスマス

クリスマスの時期は、お城や教会で数々のクリスマスコンサートが開かれます。24日は、教会で行われる莊厳な聖夜ミサに、多くの人が家族で出掛けますが、夜はプレゼントを開けたり、おしゃべりをしながら家族みんなで過ごします。イヴの日のディナーは、ソーセージやポテトサラダなどが一般的で、ドイツでは26日を「クリスマス第2日」とし、24日から26日までの3日間を国民の祝日としています。



©by Bundestor
フラウエン教会前でのコンサート風景

▲ドイツのクリスマスは、にぎやかな日本のクリスマスとは対照的です。日本でよく見かけるクリスマスケーキもありません。どちらかというと、日本の年越し・お正月に近い雰囲気があり、家族や親族でゆっくり過ごすのが伝統的です。25日と26日は、祖父母の家などに親戚一同が集まり、アヒルのローストなどを食べます。

クリスマスプレゼントは2回?



ドイツの子どもたちは、24日の夜に贈られるクリスマスプレゼントとは別に、「聖ニコラウスの日」と呼ばれる12月6日にも、ささやかなプレゼントがもらえます。前日の5日の夜に、長靴を玄関前に置いておくと、サンタクロースにそっくりな伝説上の聖人ニコラウスがやっ聖ニコラウスに扮した姿てきて、子どもたちへのプレゼントを長靴に入ってくれます。1年間良い子に過ごしていた子どもには、木の実や果物などのプレゼントを詰めてくれますが、悪い子どもには、聖ニコラウスのお供“クネヒト・ルプレヒト”が小枝を入れることもあります。(小枝は、親が悪い子を鞭打って懲らしめるためのもの。)



▲南ドイツでは、サンタクロースではなくて、クリスト・キント(幼子イエス)と呼ばれる金色の天使が、クリスマスツリーの下にプレゼントを持って来てくれると言われています。クリスト・キントは、ニュルンベルクのクリスマスマーケットの象徴的な存在。2年に1度、若い女性の中からコンテストでクリスト・キントが選ばれる。

オルガンとその仲間たちシリーズ2017
公演情報 『クリスマス・オラトリオ』

12月17日(日) 開場13:30 開演14:00
【会場】アイザックスターントホール

【出演】大塚直哉(企画・監修、指揮、オルガン)
古楽器オーケストラ
一般公募によるオーディションで選ばれたソリスト
オルガンとその仲間たちシリーズ合唱団
【料金】全席指定
一般2,500円[会員2,200円]
U25割1,500円 親子割3,000円※小・中学生+一般
高校生会員1,000円



Miyazaki みにまむす音楽会 関連企画

みにまむす座談会

四弦バンジョー、ヴァイオリン、ポケットトランペット、ガラクタパーカッションで賑やかす、大道芸的音楽団「みにまむす」。NHK Eテレの番組「ストレッチマンハイパー」に“遊び樂団みにまむす”として出演していた陽気な4人組が、愉快な音楽&パフォーマンスで会場を盛り上げます。公演に先駆けた座談会でも、「みにまむす」らしさが炸裂!彼らの楽しい関西弁トークに、思わず笑みがこぼれます。

—今回のコンセプトは、「0歳も100歳もみんなで音楽であそぶためのコンサート」です。みにまむす流の“音楽を楽しむコツ”を教えてください。

マルミン 実は、当時流行っていた「ミニハムズ」からきていて(笑)。小っちゃい楽器を集めたユニットをやろうとしてたので、「みにまむす」でどうや?って。最終的には「す」の点々無くして、「みにまむす」になったんやけど。最初はね、「モーニング娘。」みたいに、「みにまむす」の後ろに「。」も付けてました(笑)。

ゲッチ なんで「。」が無くなったかというと、姓名判断のゲッターズ飯田さんに、「これからうまくやっていくにはどうしたらいいですか?」って聞いた時に、「一画多いですね」って言われて(笑)。それじゃあ、「。」無くして『みにまむす』にします!って。

マルミン すぐ「。」とったよな(笑)。

ゲッチ その2週間後ぐらいに、NHKの仕事が決まるつていう劇的なことが起こったんですよ。

リョウ 1年後、ゲッターズさんに会った時に「NHKで仕事が決まった」って報告したら、「すごいですね!!」って言われたんやけど、それあんたが言うたんやろ!って(一同笑)。

—そんな経緯があったんですね(笑)。みにまむすの皆さん、「いつでもどこでも賑やかす」をモットーにされていますが。

ヒテオ 我々は歌のないインストバンドなので、世界中どこでも行けるわけですよ、そこは強みですね。言葉の壁がないのも、子どもから高齢な方まで楽しんでいただけるところかな。

マルミン 例えばクラシックのミュージシャンとはちがって、演奏の中にはボディランゲージがたくさんある。

ヒテオ 僕らの重要なポイントに、音半分・見た目半分、というのがあります。スローガン?いや違うな、勝手にそうなっていったんです。常に100%同じ演奏ができる、それはCDでいいわけですからね。やっぱりライブは、見て楽しむ、というところも大事じゃないですかね。

公演情報	Miyazaki みにまむす音楽会
11月26日(日) (各回:約60分公演)	
○午前の回 10:30開場 11:00開演	
○午後の回 13:30開場 14:00開演	
【会場】イベントホール	
【出演】みにまむす	
【料金】全席自由	
0歳~小学生500円	
一般1,000円	

「みにまむす」ってどんなバンド?
QRコードを読み取ると、みにまむすの動画が見られます。

「Let's 和の音♪」 昨年から、和楽器に親しんでもらおうとスタートした「Let's 和の音♪」。じっくり箏を習う「おけいこ」をはじめ、今年は、箏・笙・小鼓・笛に、新たに三味線を加えた5つの楽器が体験できるワークショップを開催しました。

たいけん密着!レポート

“箏”的お稽古を3回行い、お稽古でマスターした曲“天の岩戸”を、プロの演奏家と一緒にコンサートで披露する本格体験コース。

1回目

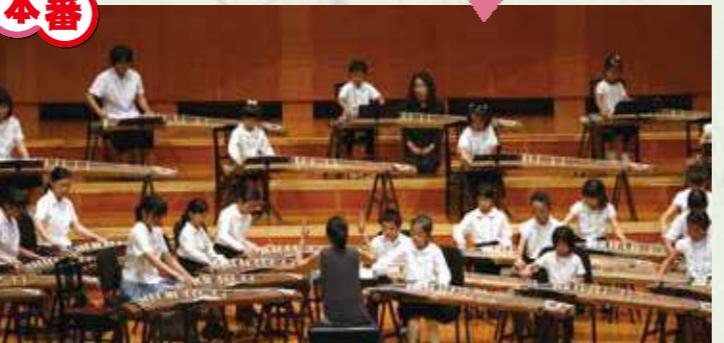


▲参加者の中には、前回参加していたお姉ちゃんを見て、次は自分も参加したいとお稽古を心待ちにしていた女の子の姿も! クイズを交えながら「箏」の名称や簡単な歴史などを学ぶと、次はいよいよ箏に触れて音を鳴らしてみました。箏爪を飛ばしてしまう子が続出する場面もありましたが、きれいな音が出始めると無我夢中になって弾いていました。



お稽古期間中の感想は、「感想シェアボード」に貼ってみんなで共有。子ども達の意気込みやご家族の想いが伝わってきます。参加者同士の交流も生まれ、終わるころにはお友達がたくさんできていました。

本番



▲3回のお稽古とリハーサルを終えて、いよいよ本番!十七絃箏や二十五絃箏、笙、囃子が加わり、迫力ある音がホールに響いていました。すっかり演奏する姿もママになっていて、ご家族の方も「短時間でよくここまで演奏できるようになった」と、我が子の成長ぶりに感激していました。

「はじめてのおけいこ」編

参加者: 小学1年生~中学2年生 計21名

2回目



ことづめ
箏爪
箏を弾くときに指にはめる爪形のもの。右手の親指、人差し指、中指それぞれに合うサイズの箏爪をはめて弾きます。



▲お稽古が待ち遠しかったのか、始まる前から自主的に復習する姿も! 今回は、宮崎商業高等学校箏曲部6名(1年生)が、お手伝いに参加。子どもたちの隣で丁寧にアドバイスしてくれました。お姉さんたちのアドバイスもあり、少しづつ箏に慣れてきたようです。

天の岩戸 あめのいわと
「Let's 和の音♪」のために高橋久美子さんが作曲。歌詞は、神話の岩戸伝説をもとにしたもの。言葉のリズムと手の動きを合わせて覚える口唱歌の「テン・テン・シャシャテン」や「ツンツルテン」なども、伝統的な奏法“弾き歌い(演奏しながら歌う)”で演奏する。

3回目



▲コンサート当日に演奏する『天の岩戸(あめのいわと)』を、最後まで通して演奏しました。自宅でも稽古動画を見ながら熱心に練習されていたようで、回を重ねる度に上達していくのが感じられます。

番外編 「職員奮闘記」



体験のフォローに
入れるように、職員も
各和楽器に挑戦!
楽器の魅力や奥深さを
感じました。

「かじってみよう!」編

「箏」「三味線」「笙」「小鼓」「笛」から興味のある楽器を1つ選ぶ、90分の体験コース。



▲初めて触れる楽器に戸惑っていましたが、見よう見ま似で取り組んでいました。最後はみんなで簡単な曲を一曲演奏できるまでになりました!

「ふれてみよう!」編

気軽にいろいろな楽器が体験できるコース。



▲各楽器の体験コーナーで、「クイズ&スタンプラリー」も実施!大人も子どもも夢中で楽器に触れて楽しんでいました。



企画担当者
コメント
桑畠郁美

このワークショップを通して、伝統的な和楽器が少しでも身近な楽器にならいいなと思いま。和楽器を体験することはもちろん、プロの演奏家による「本物」の生演奏を鑑賞できるまたとない機会です。来年はさらに充実したワークショップを検討しております。どうぞお楽しみに!

メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）

自主事業公演チケット情報

(共催公演) チケット発売中

11月1日(水)*・2日(木)開場18:40 開演19:00
★終演後、トークあり

イベントホール

木ノ下歌舞伎

『心中天の網島

—2017リクリエーション版—

(主催:木ノ下歌舞伎)



©東直子

木ノ下歌舞伎「心中天の網島」(2015)

作:近松門左衛門

監修・補綴:木ノ下裕一

演出・作詞・音楽:糸井幸之介

出演:日高啓介 伊東茉耶 伊東沙保

武谷公雄 西田夏奈子

澤田慎司 山内健司

全席自由 一般2,500円

U25割2,000円

高校生以下1,000円

立山Dの“ココ”に注目

「木ノ下歌舞伎は歌舞伎を現代に！のスタンスがハッキリしていて清々しい。日本中が熱い視線を向けるキノカブの作品をぜひ宮崎でご堪能下さい♪」

11月11日(土)

開場14:15 開演15:00

アイザックスタンホール

チャイコフスキイ・シンフォニー・オーケストラ
(旧モスクワ放送交響楽団)

チケット発売中

出演:ウラディーミル・フェデセーエフ(指揮) 三浦文彰(ヴァイオリン)

チャイコフスキイ・シンフォニー・オーケストラ(管弦楽)

全席指定 S席完売 A席9,000円[会員8,100円]※残席わずか B席7,000円[会員6,300円]
C席5,000円[会員4,500円] D席3,000円[会員2,700円]※残席わずか U25割2,500円※C席のみ
親子割5,500円※小・中学生+一般、C席のみ 高校生会員1,000円※D席のみ**11月26日(日)**

【午前の回】開場10:30 開演11:00

【午後の回】開場13:30 開演14:00

イベントホール

Miyazakiみにまむ音楽会 0歳から入場できるコンサート

詳細はP5▶▶



チケット発売中

12月2日(土)

開場10:30 開演11:00

アイザックスタンホール

パイプオルガン プロムナード・コンサートvol.157
『オルブラ』

チケット発売中

出演:吉村怜子(オルガン) 伊豆謡子(ご案内)

全席自由 一般500円 なかよしチケット700円※4歳以上2名1組、前売りのみ

12月17日(日)

開場13:30 開演14:00

アイザックスタンホール

オルガンとその仲間たちシリーズ2017「クリスマス・オラトリオ」

詳細はP3-4▶▶

チケット発売中

出演:大塚直哉(企画・監修、指揮、オルガン) 古楽器オーケストラ

一般公募によるオーディションで選ばれたソリスト オルガンとその仲間たちシリーズ合唱団
全席指定 一般2,500円[会員2,200円] U25割1,500円 親子割3,000円※小・中学生+一般
高校生会員1,000円

アイザックスタンホール

小曾根真 featuring No Name Horses

詳細はP1-2▶▶

チケット発売中

出演:小曾根真(ピアノ) No Name Horses(ビッグバンド)

全席指定 S席5,000円[会員4,500円] A席3,000円[会員2,700円] U25割1,500円※A席のみ
ペア割9,000円[会員8,100円]※S席のみ、前売りのみ

親子割3,500円※小・中学生+一般、A席のみ 高校生会員1,000円※A席のみ

アイザックスタンホール

12月23日(土・祝)

開場16:30 開演17:00

アイザックスタンホール

シリーズ<大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座～vol.6

木管楽器の魅力～宮崎出身のオーケストラプレイヤーによる～

出演:黒木綾子(ファゴット) 永田明(フルート) 日高慧(オーボエ) 阪本幹子(ピアノ)
桐原直子(フルート・ご案内)

○ランチタイム・コンサート～気軽に楽しむお昼の60分～(途中休憩なし)

全席自由 一般1,000円[会員800円]

○ソワレ・コンサート～じっくり楽しむ夜の100分～(途中休憩あり)

全席自由 一般2,000円[会員1,800円] U25割1,000円 親子割2,500円※小・中学生+一般

チケット発売中

1月27日(土)
イヴェントホール

都城公演 1月28日(日) 開場13:30 開演14:00(100分公演) 会場:都城市総合文化ホール

Attention
(ご注意)

◎記載情報は変更になる場合があります。 ◎割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。

◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。※一部公演除く

◎託児サービス(有料・事前申込要)がご利用いただけます。※一部公演除く

0歳から入場できる演劇公演



Message 立山ひろみ(作・演出／宮崎県立芸術劇場 演劇ディレクター)

『赤桃』は、赤ずきんちゃんと、桃太郎のお話です。でも、皆さんのが知っている物語とは少し違っているかも、いやだいぶ、違っているかもしれません。この作品は、小さなお子さんと、大人の皆さんと一緒に楽しめる作品を!!と創りました。子どもが小さいから、劇場に来にくくなっている方、子どもが騒ぐと迷惑だから、行くところがないな、と思っている方、大丈夫です！0歳からご来場いただけます！子どもが遊びながら引き込まれる仕掛けをご用意して、お待ちしてます！大人の皆さんもクスクス笑ってしまいます。お楽しみに☆

チケット発売中

公演情報

ニグリノーダ公演「赤桃」

11月18日(土)【会場】大練習室2

①開場10:30 開演11:00

②開場13:00 開演13:30

【作・演出】立山ひろみ

【出演】福留麻里 高橋牧(時々自動)

河内哲二郎 五島真澄(PUYEY)

日南公演

11月19日(日)①11:00開演

②14:00開演

【会場】日南市生涯学習センター

まなびピア 多目的室

【料金】全席自由

4歳未満無料 4歳以上500円

なかよしチケット700円

(4歳以上2人組、前売りのみ)

お問合せ

宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210

<http://www.miyazaki-ac.jp>

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

Twitterとfacebook随時更新中！「フォロー」と「いいね！」お待ちしています。